

2006自動車点検整備推進運動
9月~10月強化月間

わが家のクルマは人と環境にやさしい。

安心
安全の
ために

点検して
ますカー
!?

運転席
チェック

エンジン
ルーム
チェック

外回り
チェック

キューティー★マミーは
しっかり点検
テンゲン★マミー

点検お知らせ隊長 キューティー★マミー

推進/国土交通省 自動車点検整備推進協議会

後援/内閣府 警察庁 環境省 協力/自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構

(社)日本自動車整備振興会連合会、(社)日本自動車工業会、(社)日本自動車販売協会連合会、(社)日本中古自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合、(社)日本自動車連盟、(社)全国自家用自動車協会、(社)日本バス協会、(社)全日本トラック協会、(社)全国乗用自動車連合会、(社)全国レンタカー協会、(社)日本自動車タイヤ協会、全国石油商業組合連合会、(財)自動車検査登録協会の、(財)日本自動車教育振興財団、(社)日本損害保険協会、全国共済農業協同組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会、(社)日本自動車部品工業会、(社)全国自動車部品商団体連合会、全国自動車電装品整備商工組合連合会、自動車用品小売業協会、(社)電池工業会、全国ディーゼルポンプ振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、全国タイヤ商工協同組合連合会、(社)日本自動車車体工業会、全国自動車部品販売店連合会、日本自動車部品協会

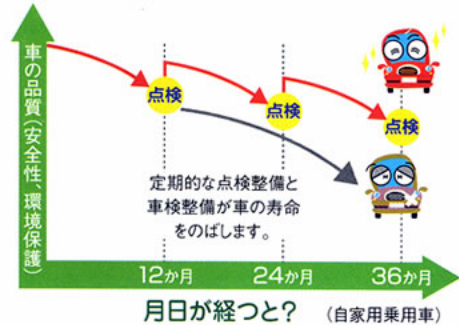
(順不同)

クルマの部品は、走行や時間の経過に伴い、劣化・摩耗しています！

クルマの健康管理は、ドライバーの日常点検が基本。 そして、定期点検整備の実施は使用者の責任です。

日常点検や定期点検をきちんと行っていますか。
日頃こまやかな点検を行ってれば、運転中のトラブルの多くは回避できます。クルマの健康管理は、クルマを守るだけでなく、人の命や環境も守ることにつながります。

- 日常点検** 日常点検は、日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検整備を行きましょう。
- 定期点検** 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、自家用乗用車は12か月および24か月ごとに実施しなければなりません。



マイカーを点検しよう。日常点検 15項目チェックシート！



エンジンルームチェック 5項目



外回りチェック 4項目



運転席でチェック 6項目

項目	説明	判定 ○ or ×
ブレーキ液の量	ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
冷却水の量	冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近い、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
エンジン・オイルの量	エンジンに付いているオイル・ゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端につける2本のラインか、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
バッテリー液の量	バッテリーの液量が規定の範囲(上限と下限の間)にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
ウインド・ウォッシュ液の量	ウインド・ウォッシュ液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
ランプ類の点灯・点滅	クルマにはヘッド・ランプ、車幅灯、ストップ・ランプ、テール・ランプ、ウィンカーなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
タイヤの亀裂・損傷の有無	タイヤの亀裂や損傷の有無を目で確認するとともにタイヤの異物チェックも入念に行いましょう。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
タイヤの空気圧	タイヤの接地部のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
タイヤの溝の深さ	タイヤの溝の深さが浅くないかタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。 ※スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
エンジンのかかり具合・異音	エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
ブレーキの踏みしろときき具合	エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたいえ、ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだとき、床板との間(踏みしろ)が適当かどうか確認します。また、その踏みごたえがいつもと違うなど感じたら要注意です。踏みごたえの違いの判断は、新車時や定期点検直後のブレーキ・ペダルのフィーリングで判断するといいでしょ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)	駐車ブレーキをいっばいに引いた(踏んだ)ときに、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後の違いを比較してください。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
ウインド・ウォッシュの噴射状態	ウインド・ウォッシュ液を噴射させ、ワイパの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当か点検します。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
ワイパの拭き取り能力	ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシュ液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウインド・ウォッシュ液を噴射してからワイパを作動させましょう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
エンジンの低速・加速状態	エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。